

シンポジウム 「世田谷版地域包括ケア10年」

第1部

令和7年度

世田谷区における 「地域包括ケアの地区展開」の開始 スキームと四者連携の現状について

世田谷総合支所 保健福祉センター
保健福祉課 澁田 景子

■世田谷区の概要

■東京23区の西南部に位置する住宅都市

■面積 58.05 Km² ■5総合支所 27地区

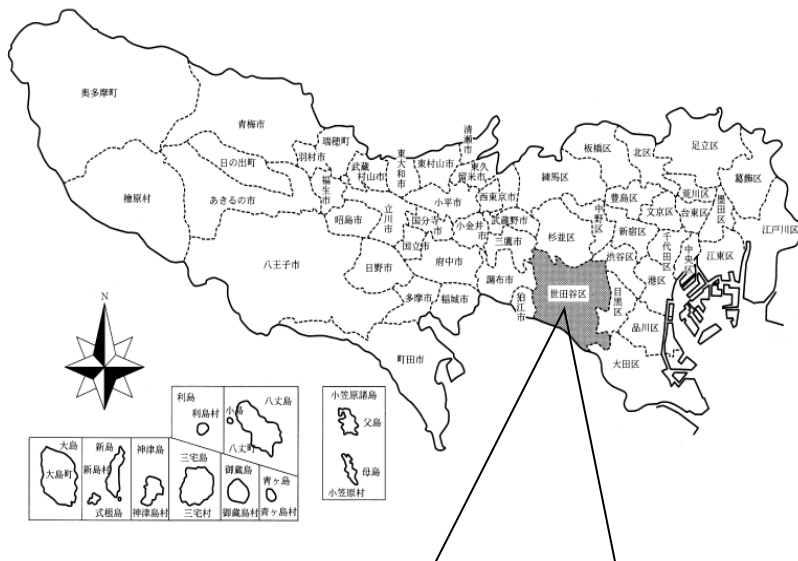
(平成27年10月1日現在 住民基本台帳より)

■総人口 881,733人

■65歳以上 176,797人(20.05%)

■要介護認定者数

34,936人(20.3%) *平成26年3月末

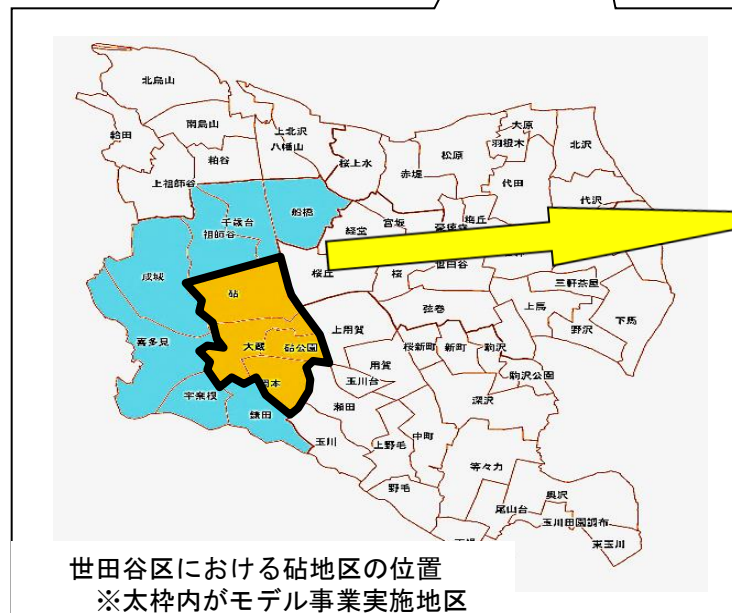


■砧地域・砧地区の概要

◆砧地域の人口 158,666人 ◆世帯数 74,176世帯

◆65歳以上 32,189人 ◆高齢化率 20.29%

※砧地域の中で砧地区の人口が最も多く、20歳以上の人口が多い。

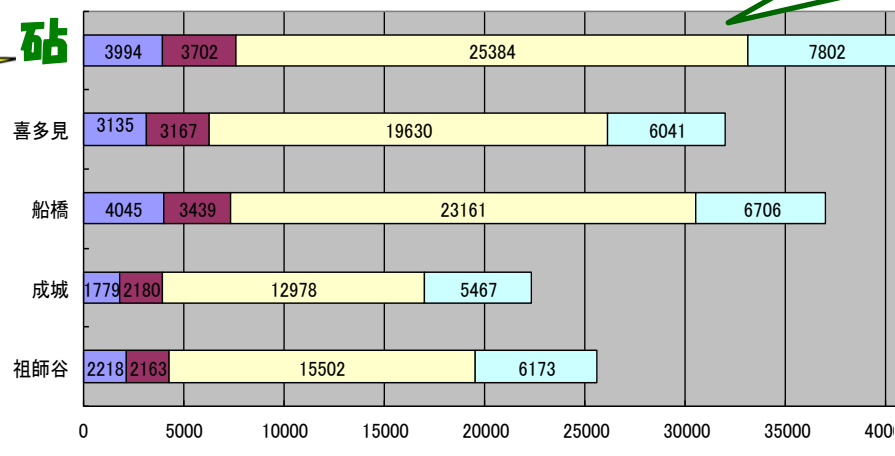


世田谷区における砧地区の位置
※太枠内がモデル事業実施地区
(砧地区)

砧地域地区別人口構成
(平成27年10月現在)

人口約4万人

砧



■地域包括ケアの地区展開 のモデル事業概要(平成26年10月～)

【モデル事業の3つの視点】

- ① 身近な福祉相談の充実
- ② 地域の人材や社会資源の開発・協働
- ③ 三者の連携体制の構築と運営

1. あんしんすこやかセンター相談機能の拡充

～ 高齢者だけでなく、障害者、子育て家庭等に係る相談も実施 ～

2. 社会福祉協議会事業の地区展開への支援

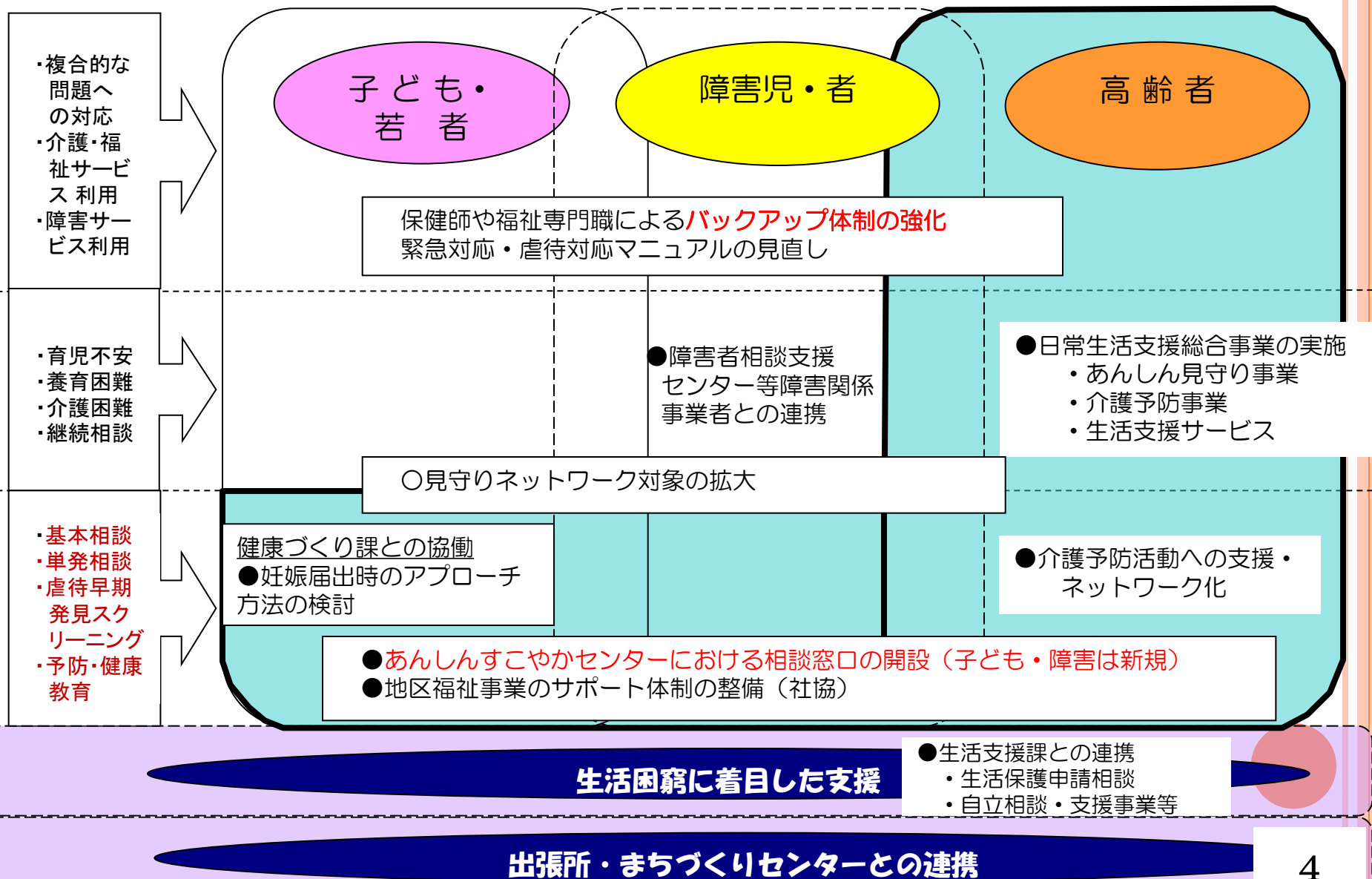
～ まちづくりセンター内に社協スタッフの活動拠点を設け、地区内の関係団体等のネットワークづくりや地域資源開発等の事業展開を行う ～

3. まちづくりセンターの役割

～ 三者が連携して対応し、相談体制をさらに充実させるとともに、三者の連携会議を開催し、情報共有や地区の課題整理・検討を行う～

■地域包括支援センター相談範囲とモデル事業イメージ

【 ●新規事業 ○拡充事業 】



令和7年度 世田谷地域 四者連携による地区課題と取り組み

凡例: ●R7年度新規の取り組み ▲予定の取り組み ◎継続中の取り組み

5

地区	四者連携会議の状況						取組み		備考						
	地区アセスの検討	1	2	3	4	5	6	(1)		(2)	(3)	(4)	(5)		
	連携会議以外の担当者会の状況	見守り・ネットワーク	孤立化居場所交流・情報	地域での担い手不足	認知症・障害者等の理解	防災・防犯	道路・交通(生活環境)	ネットワークづくり	居場所づくり、多世代交流	移動販売	地域デビュー応援バックの配付等	活躍の場・居場所づくり	防災訓練・グッズ作成	地域交流ラボ	特徴的な取組み等の補足(数字は取組み項目)
池尻	各事業の情報交換に開始したが、まちこま会に関する内容や課題等は4者で検討及び情報共有。地区アセスの意見集約はメールで対応	地域住民だけでなく事業者との協力、連携が十分でない	不足していた多世代で参加・交流できる場の創出	地域活動の新たな担い手不足	認知症や障害者など地域と繋がる機会が少ない	避難所運営訓練や防災訓練への参加者が少ない	246を挟んだ地区の分断による買い物不便	◎3留・池尻まちこま会 ・テーマ「地域の担い手、それだけの立場から」	◎*1 みちあそび・外遊び（こどもの日池尻ブリーダー・おやがや村まつりみちあそび・まちなか作品展外遊び） ◎まちこま会、まちなか作品展、こきんじ市、まつり大会 *2居場所機能「おおぞら」 *2居場所機能「おおぞら」と企画機能「おおぞら会議」	◎*4セブンイレブン *2「おおぞら」とコラボ	◎児童館利用の中高生のボランティア参加を促す ◎PTA、おやじの会等との交流を通じて人材発掘 ◎まちこま会	◎*3にんにんに会 *2居場所機能「おおぞら」（ポッチャ体験交流会）	◎「ファーストアクションカード」を使用した指定避難所の開設訓練 ◎「在宅避難」の案内、防災塾での協議、避難所運営のマニュアルの充実 SNSを活用した広報	昭和女子大	*1 池尻児童館60周年記念懇談会・祭りを契機に開始した多世代交流を目的としたイベント *2 移動販売に来た地区民や行事を通した多世代交流の場 *3 障害・認知症・年齢・属性を問わず人と人とならなう場 *4 食料品の他に日用品・公共料金の支払い等、売内等拡充
太子堂	四者連携会議で地域課題について積極的な意見交換をしている。地区アセスはまちセンの案に会議上・メールで意見集約	担当者会はないが、SWA HELP-Net有り、適宜検討	・子どもの場所および多世代の交流不足 ・児童館・図書館・広い公園がなく、地域住民の交流活動参加の機会が限られている	地域活動の新たな担い手不足	災害時の自助の理解・活動意識が不十分			◎*1「三茶みちあそび」「外遊び」プロジェクト *三茶とあそび実行委員会を結成し、こどもの居場所確保と民間事業所等への活動の場の働きかけ ◎まちの居場所づくりにつながるふれあい広場や茶沢通り等の公共空間を活用したイベント・社会実験 ・たちよりカフェ（JKK、社協）	◎*2民間事業所や個人経営店等で話し合い実施・並山、お出かけプログラム等企画・せたがや福祉地区民学会で発表		◎ふれあい広場を活用した取組み ・オレンジの日、あんしんフェス、青空ラジオ体操、青空スマホ講座、青空体操教室、青空カフェ	◎町会や区の他、小学校、中学校を含め、サバイバルキャンプなど様々な防災訓練、避難所運営訓練を実施 ◎体験型防災777	昭和女子大 ●日本大学危機管理学部	*1 池尻児童館懇談会・おやがや祭り（児童館60周年記念を契機）を通した、多世代交流を目的としたイベントの実施 *2 活動スペース確保のため民間SOMOケアいきガイド（ST活動者向けカルチャーセンター）、くらしの友城西営業所（葬儀会社）、スペースココカラ、等を活用して、ACチーム打ち、スマホ講座を開催	
若林	地区アセスは四者で作成されている。	高齢者や障害者、子どもが地域と繋がるきっかけが不足	支援が必要な人が繋がる交流の場の不足	新たな担い手を担う取組みが不足	犯罪や消費者被害を未然防止する抑止力及び防災対策の啓発が不十分	・若林5丁目一丁目地区の買物不便・環七による地域の分断		◎*1「体（表）換にいらっしやいみ」 ●乳癌のサロン（健康茶室）	◎*2ハートふるカフェ ●乳癌のサロン	●*3セブンイレブン	◎*2ハートふるカフェ	◎*2ハートふるカフェ	国士館	*1スポーツクラブの体館目を利用した体験教室「アフレック予防」「相談教室」「居場所」の要素を取り入れた実施 *2特別要介護老人ホームの場を活用 *3 公用地施設内で移動販売、梅丘地区とコラボ	
上町	地区アセスは、4者が協議で検討	高齢者の見守りや地域づくり活動が十分でない	近所付合いの活動参加者の増加	地域活動の担い手不足	AC講座が十分でない（強化）	災害への対応力が弱い（自助・共助の強化）	買い物が困難なエリアがある	◎見守りネットワークやACチーム等を通じた交流、ネットワーク強化	◎多世代交流場づくり、交流の場づくり活動をしている団体を対象に情報発信のヒントを学ぶ交流会を開催 ◎防災・防犯をテーマとした交流会の開催介護福祉関連事業者と区民の顔の見える関係づくり	◎防災・防犯をテーマとした交流会の開催介護福祉関連事業者と区民の顔の見える関係づくり	◎*1ACチームは四者で取り組んでいる	●*2上町地区合同の防災訓練（上町地区防災フェスタ）日頃の生活を基に安全安心と見守り活動に繋げていく防災対策交流会を開催、防災対策支援事業を告知 ▲災害時、要配慮者の命をどう守るかをテーマとした交流会	農大	*1ことごとく歌の会、ラジオ体操、認知症カフェの各グループを実施 *2 町会組織の防災訓練を実施していたが、上町地区すべての町会が合同で開催する防災訓練は初めての試み	
経堂	統一したフォーマットを使用して、情報収集の効率化を図っている。	高齢者や子どもが活動が十分でない	・多世代の交流・繋がりや活動の機会が少ない。 ・町会と民生委員の交流がない地域がある。 ・中高生の居場所づくり	地域活動の新たな担い手不足	障害者等の参加や交流の場が少ない	・地域の防災力低下の懸念 ・避難行動要支援者の安否確認活動が十分でない	駅前や狭い道での自転車の運転マナーが悪い。	◎*2民生・児童委員と町会、学校関係者、四者の情報交換交流会	◎*1相談機能を持ったフードドライブ「イキイキ共済会」 ◎*3子ども天国 ◎ボランティア交流会	◎見守りネットワークを強化	◎AC講座 ◎商店街に「認知症あんしんサポート店」の協力を依頼しステッカーを活用	◎RUN付、落語会、ボランティア等 ●協議に付く *認知症カフェ	◎学校に関わる方々と区民防災組織との顔の見える関係づくり ◎*5関係機関主催の「防災訓練」(月1回定例会議、外部講師による勉強会)	農大	*1既存事業に相談機能を拡充 *2概ね避難所単位に分けて実施 *3小田急コルティの協力を得て子どもも関連のイベントを開催 *4若年性認知症に特化したカフェ *5若年性認知症に特化したカフェ
下馬	各事業の情報交換、各イベントへの参加により連携を図っている。 多機関協議（異別事業）の情報共有	高齢者の孤立化、デジタルバイデンが生じる	・若い世代が地域活動に十分に関与していない ・役員等、担い手不足	地域活動の新たな担い手不足	認知症や障害者など地域と繋がる機会が少ない	防災時の在宅避難の推進が不十分		◎「地域のことを話そう」（おやじの会等50歳代版） ◎児童館地域懇談会 子どもとおでかけスタンプラリー	◎龍雲寺カフェ◎極楽アフェス ●*2みんなの居場所 ◎子どもと自然体験（日大みどり） ●龍雲寺に伴う入居者のコミュニティ支援 ◎LINE「下馬野良わくわく通信」	◎65歳到達時に手紙を送付し来所者へ配付（対象者拡大） ◎アプリを活用した高齢者の健康づくり推進事業対象者へ手紙送付	◎*1みんなの居場所 ◎*25丁目自カフ ●高齢者住宅での懇談会 ◎出張型介護予防講座	◎「下馬地区防災マップ」の配付 ◎「(当事者) 本交流会」 ◎*1みんなの居場所 ◎*25丁目自カフ ●高齢者住宅での懇談会 ◎出張型介護予防講座	日大 ◎下馬・野沢×日大 防災（防災体験）スポーツフェス ◎地区行事への参加	*1 地区防災力の向上や多世代交流機会の創出を目的とした、町会と日大の協働による防災イベント *2 下馬地区民が気軽に立ち寄れるスポット *3 福祉事業者との連携	
上馬	各事業の情報交換のほか、四者で進める事業の実施内容等について検討。地区アセスは、まちセン案をとり、四者で協議し作成	児童館未整備の地区内に子ども居場所、多世代交流の場が少ない	地域活動の新たな担い手不足	認知症や障害者など地域と繋がる機会が少ない	災害に関するさらなる自助の推進	地形リスクによる生活不便（相模・買物・活動・買い物の場が少ないエリアがある）	◎地区住民作品等の展示コーナー開設	◎*1みんなの居場所 ◎*25丁目自カフ ●高齢者住宅での懇談会 ◎出張型介護予防講座	◎65歳到達時やイベント、各種事業で配布 ◎駒澤大学の学生に地域活動の参加を働きかけ	◎AC講座	◎*1みんなの居場所 ◎*25丁目自カフ ●高齢者住宅での懇談会 ◎出張型介護予防講座	◎*1みんなの居場所 ◎*25丁目自カフ ●高齢者住宅での懇談会 ◎出張型介護予防講座	◎*1みんなの居場所 ◎*25丁目自カフ ●高齢者住宅での懇談会 ◎出張型介護予防講座	*1子ども・若者・子育て世代・高齢者・障害者など多世代交流を目的とした居場所 *2上馬地区住民が気軽に立ち寄れるスポット	

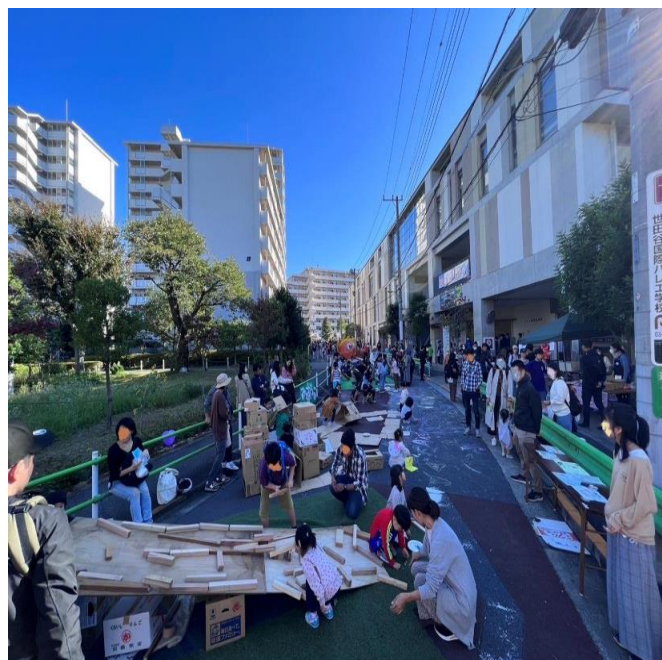
四者連携に参加した児童館の効果

世田谷地域版地域ケア連絡会での池尻児童館の報告から

6

- ・ 多世代交流が広がり地域の活性化、助け合いの地域形成につながった
- ・ 児童館未整備地区で外遊びを関係機関と協力して実施し、外遊びを通して子ども達の「生きる力」を育む場が拡大した
- ・ 支援が必要な家庭の発見や支援の機会が増加した
- ・ 中高生の活躍の場の拡大や自己肯定感の向上、担い手の育成につながった

三茶そとあそび実施状況

児童館×四者連携の取組み
池尻児童館がやがや村まつり

■地区課題と事業の効果、今後への期待

資料1-2

- ① 身近な福祉相談の充実と区民ニーズへの即時対応が図られ、各地区のアセスメントもすすみ、課題に対する取り組みも進んできた。一方、8050やゴミ屋敷などの困難事例に対し、解決に向けた長期的なかかわりや働きかけが必要であることが全区の課題として上がり、福祉緊急対応の見直しや特別対策支援チームの設置等、対応の充実を図っている。
- ② 三者連携に児童館が加わったことで、対象を限らない見守りネットワークや居場所づくり、多世代交流の取り組みが進んできている。また、各地区での先進的な取り組みを全区や地域で共有し、各地区で取り入れる好循環の仕組みも構築してきた。
- ③ 今後の課題としては、民生委員や町会の担い手の確保などの人材活用の課題が残っている。児童館を中心とした社会資源開発の他、若い世代が活動の担い手となれるような意識的な働きかけや領域を超えたまちの課題への対応の仕組みづくりも必要。